

# 私は放っておけない

金小益（キム・ソイク）牧師  
千住キリスト教会

2007年の暮れも近い12月19日（水）午前、足立区千住新橋下で行われた「給食礼拝」に参加しました。

寒風吹く千住新橋そばの荒川土手に、10時過ぎには200人もの方々が段ボールのような敷物に腰を下ろして、静粛に礼拝の始まるのを待っていました。

私語は聞こえません。歩道には、広い河原を走って来た自転車が数十台。上野公園から5キロの道を歩いてくる人も。遅れて来た人は、やはり静かに後ろの列に並び、クリスマスキャロルが書かれた歌詞シートが一人一人に配られます。

10時20分。奉仕者たちが集まって、神の祝福を祈ります。定刻になると、司会者の女性がアコーディオンを弾きながら「神の御子は」と歌い始めました。

この日の金牧師の説教は、東方の博士たちの礼拝からクリスマスの意味の説き明かしでした。

「クリスマスは、酒を飲んだり、ケーキを食べることではありません。神の御子が人となって地上に来られたことをお祝いするのが、クリスマスです。

『自分には、イエスさまにささげる宝物はない』とがっかりしないでください。兄弟たち。あなたが心を開いてイエスさまを心に受け入れるならば、それこそ神さまが一番喜ばれる贈り物なのです」

11時過ぎに礼拝が終わると給食が始まります。奉仕者が食事を配る間、参加者たちは自席で静かに待ちます。食べ終わって、2杯目を希望する人は列に並びます。ボランティアの医師がいて、希望者は無料で診察を受け、風邪薬などももらえます。満足した人は、三々五々河原に散って行きます。

すべてが終わると、給食に使った容器などを教会に持ち帰りきれいに洗い、片付けが終わり、奉仕者たちが食事を始めたのは12時半過ぎでした。

このような奉仕を、千住キリスト教会は過去10年間、毎週水曜日に行っています。奉仕者は20人ほどで、牧師と同じく韓国の方が多いようです。

牧師は、韓国の麗水生まれで、65歳。1963年21歳の時に来日。韓国では高校を出ただけなので、「留学生扱いはできない」と言われ、日本人と同じ条件で大学に入学。日本語が分からず苦労しました。

日本大学を卒業後、国際貿易センターに就職。その後31歳で献身し、聖書神学舎（現在の聖書宣教会）で学びました。

クリスチャンになったのは韓国ですが、それから6ヶ月で日本に来て、飯田橋の在日大韓基督教会東京教会で受洗。今年創立100年を祝う、歴史のある教会です。

この働きのためにも、東京教会からの支援が大きく、先日も、下着、寝袋、石けん、タオル、ラーメン、ケーキなど多くの献品がありました。

金牧師と知代子夫人に聞きました。

一千住キリスト教会はどんな教会ですか。

小益 私**が**10年前に開拓しました。一部礼拝と二部礼拝を合わせると、**70名**ほどの方々が来ています。

教会よりも、給食伝道のほうが早く始まりました。最初はマンションのリビングで礼拝をしていました。この会堂を建てて4年目に入ります。給食を運びやすいように台所を玄関のすぐ横に造りました。玄関のすぐ前に駐車場があります。

一奥様も韓国の方ですか。

知代子 私は在日なので、国際結婚です。私の役割は、運転手とお買い物、そして野菜切りのリーダーです。

一家族構成を教えてください。

知代子 娘が光良（みつよし）、息子が義信です。娘は、堆朱（すいしゅ）敏男伝道師の妻です。

一ホームレス伝道を始めたきっかけは何ですか。

知代子 私たちの教会は、一緒に食事をするを大切にしています。牧師館のリビングで礼拝をしていた頃、毎週食事をしていたのですが、河原にいる方々のことを知りながらもきっかけがなく、最初は見ているだけでした。

（以下省略）